

**目的** キルトとは、アメリカでは一般にベットカバーを総称して呼ぶが、共立女子大学では19世紀初頭(1820年前後)から1940年代までに制作されたキルトを60点所蔵している。中でも1860年頃から1900年頃のものが多く、繊維産業を中心とした産業革命が進行し生活が移り変わっていった時代を反映している。今回は、キルトにミシンがどのように使われているか実態を調査し、ミシンの普及という視点から理解できる当時の生活の変化を考察することを目的とする。

**方法** 60点のキルトについて、ミシン使用を、裏布の接ぎ合わせ、表布の接ぎ合わせ、周囲の始末に分けて調べ、制作年代をおって検討した。

**結果** ミシンが使われたキルトは44点、全体の73%、手縫いのみが16点、27%に比べて多かった。うち、裏布の接ぎ合わせに使ったものが31点、52%と多く、表布のピーシングやアップリケなどが24点、40%、周囲の始末が21点、35%だった。アメリカでのミシンの販売数は1856年以降、家庭用が設計されたことをきっかけに急速に伸びていった。家族全員の衣類や寝具などすべて必要なものは揃えなければならなかった女性達にとってミシンは画期的な道具となった。本学所蔵のキルトについても、1860年以降のものは裏布、表布、周囲の始末と幅広くミシン使用が見られ、家庭にミシンが導入され生活が変化した一端を知ることができた。